

令和3年度宅地建物取引士試験 (12月試験)

解答速報

2021年12月19日20:00現在

問1	4	問11	3	問21	4	問31	2	問41	1
問2	3	問12	2	問22	1	問32	1	問42	3
問3	2	問13	2	問23	2	問33	2	問43	1
問4	4	問14	2	問24	1	問34	1	問44	3
問5	3	問15	4	問25	2	問35	4	問45	4
問6	1	問16	3	問26	3	問36	4	問46	1
問7	4	問17	3	問27	4	問37	2	問47	4
問8	2	問18	2	問28	1	問38	3	問48	4
問9	3	問19	1	問29	3	問39	3	問49	2
問10	1	問20	1	問30	3	問40	2	問50	4

TACが予想する合格基準点は、33±1点です。(12/19現在)

※次ページの講評もご覧ください。

※当解答速報はTAC独自の予想であり、解答及び合格基準点を保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合もございます。

※この解答速報の著作権はTAC株式会社のものであり、無断転載・転用を禁じます。

令和3年度（12月）宅地建物取引士試験講評

【全体】

- 令和3年度10月17日実施の宅建士本試験（以下「10月試験」という）と比較して、宅建業法・その他関連知識がやや難しくなったため、全体の合格ラインは下がると思われる。

【民法等】

- 改正点に基づく出題はあまり多くなく、過去に未出の事項も出題されたため、難しかったと思われる。
- 「10月試験」と同様、問1において判決文型の出題がなされた。
- 事例型問題はやや少なく、6問の出題であった。
- 民法等全体の合格ラインは、「10月試験」と同程度と思われる。
- 合格ラインは7点程度。

【宅建業法】

- 難易度は、昨年度や「10月試験」よりも、やや難しい。
- 個数問題は「10月試験」と同様5問であったが、組合せ問題が1問ではあるが、久しぶりに出題された。
- 難しい肢が出題されても、消去法で正解できた。
- 合格ラインは16点程度。

【法令上の制限】

- 国土利用計画法の近年の配置は、法令制限の最後に出題されることで定着となっている。
- 基本・応用論点や難問を中心とした「主要6法令」からの出題であった。
- 建築基準法2問は、過去問にない未出題論点が多く、そのうちの1問は解答が困難であったと思われる。
- 土地区画整理法・国土利用計画法の選択肢には、過去問にない論点が散見されたが、解答は絞り込めたと思われる。
- 個数・組合せ問題は出題されなかった。
- 合格ラインは5点程度。

【その他関連知識】

- 問23～25は、全体的には正解肢を絞り込み易い問題であった。問23・24（税金）の選択肢は、過去問題からの出題も多く、過去問をしっかりと復習をしていた受験生は、正答の絞り込みはしやすい。2問は正解したい。
- 問46～50も、正解肢を絞り込み易い問題が多く、点数をしっかりと獲得したい。しっかりと復習をして準備していれば、3点は獲得できる出題であった。
- 「10月試験」と比較して、難易度に大きな差はなかった。
- 合格ラインは5点程度。

以上